

説 教

第一アドベント聖日礼拝 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2022年11月27日（日）

主 題：「主をほめたたえよ！」

—ザカリヤ讃歌—

テキスト：ルカの福音書1章67－79節

はじめに

- ・本日、私たちは第一アドベントを迎えました。これからイエス・キリストの誕生までの4週間、クリスマスに向かい心を整えて行きたいと思います。
- ・今日のメッセージの主題は、「主をほめたたえよ！」です。
まことに、第一アドベント聖日にふさわしい主題であります。
「主をほめること」⇒ それは神を信じる聖徒たちにとって、大切なことです
- ・このテキストは「**ザカリヤ讃歌**」とも呼ばれ、聖書でよく知られた箇所です。
すなわち、イエス・キリストが誕生する前の大切なストーリーです。
生まれた男の子はヨハネ、父親の名前はザカリヤ、母親はエリサベツでした。
この生まれた男の子の名前はバプテスマのヨハネと呼ばれ、実に偉大な人物となりました。女の人から生まれた人で、彼より大いなる者はないと、聖書は記録しています。ザカリヤ讃歌は、バプテスマのヨハネの父親が捧げた「**神への讃歌**」です。

・では、なぜザカリヤは主をほめたたえ、賛美の歌声を神に捧げたのでしょうか？ ザカリヤは、いったいどんな人物であったのでしょうか？考えてみましょう。 先ず、ザカリヤはエルサレム神殿に仕える祭司でした。

ルカ福音書

1:10 彼が香をたく間、外では大勢の民がみな祈っていた。

1:11 すると、主の使いが彼に現れて、香の祭壇の右に立った。

1:12 これを見たザカリヤは取り乱し、恐怖に襲われた。

- ・神殿に仕えた祭司ザカリヤは、不安と恐怖に襲われました。彼は主の幸い（恵み）を体験するまで、不安と恐怖につつまれたのでした。そして神のストーリーが始まりました。
- ・今日、私は祭司ザカリヤが神の前で「**ザカリヤ讃歌**」をささげるまでに、いったいどのようなことがあったかを考えてみたいと思います。

大切なポイント

1. 約束の言葉

1:13 御使いは彼に言った。「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。

1:14 その子はあなたにとって、あふれるばかりの喜びとなり、多くの人もその誕生を喜びます。

1) 御使いの約束の言葉

- これが御使いが語ったメッセージの内容でした。そして更に、御使いは言いました。
 - ① 男の子が与えられる（彼とエリザベスには長い間、子がなく願望が聞かれた）。
 - ② 天からヨハネという名前が与えられる。
 - ③ 男の子はザカリヤにとって喜び、楽しみとなる。また多くの人々もその誕生を喜ぶ。
- 御使いのお告げには、このような特徴がありました。そして、さらに御使いは告げました。

1:16 イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせます。

1:17 彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」

- 生まれてくるヨハネは、人々を神に立ち返らせる働きをする人になるのです。そして、主の前に人々を備える働きをする人になるということです。確かに、バプテスマのヨハネは、荒野で道を備える人となりました。メシア（救い主）であるイエスの前に現れ、荒野でメシアへの道を備える器でした。
- ところで、神の大いなるご計画は、御使いを通して言葉によって与えられました。しかもその言葉は、ヨハネにあって確かに成就しました。聖書は多くの約束の言葉を与えています。神はご自身の計画、また意志を伝えるのに「約束の言葉」をお与えになりました。
- では、ザカリヤは、御使いの「約束の言葉」をどのように受け留めたのでしょうか？

2) ザカリヤの応答

- 聖書はこのように記録しています。 **新共同訳聖書**

1:20 あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかつた

からである。」

- これがザカリヤの応答でした。この後、ザカリヤはヨハネと命名するまで、口が不自由となりました。このペナルティーがかかった背景は、彼が「わたしの言葉を信じなかったから」(不信仰)でした。神からの忠告でした。なぜ、ザカリヤほどの人物が不信仰になったのでしょうか……？ 信じられなかったからです。
- 皆さん。信仰の父であるアブラハムの妻サラは、かつて不妊の女性でした。しかし、神からやがて子供が与えられると聞いたとき、信じられませんでした。そして彼女は笑いました(創世記18:12)。

18:12 サラは心の中で笑って、こう言った。「年老いてしまったこの私に、何の楽しみがあるでしょう。それに主人も年寄りで。」

- 皆さん。ここで信じるとは？ いったいどういうことか考えてください。ザカリヤはイスラエルの祭司であり、神殿で神に仕える人でした。いわゆる神に近い人であったはずです。幼い頃からユダヤ神学を学び、豊かな知識もあつたに違いありません。一方、彼は祭司でしたから、血統的にはレビ族の出身でもありました。このように外側から見れば、申し分のない人でした。
- しかし、それでも御使いが現れ、超自然的な方法で「約束の言葉」が与えられた時、信じられませんでした。つまり、信仰とは人間の評価や領域を超えるものである、ということです。これだけの人物だからとか、こんな経験者だからだ、ということはありません。
- イエス時代の多くの社会的指導者たち、学者、知識人たちを見てください。彼らの多くは、イエスを信じられませんでした。今の時代も、多数の知識人や、高位にある人たちが聖書の言葉を信じられない、と言います。では、いったい信仰とは何でしょうか？
- 神が私たちを選んでくださった基準は、どこにあるのでしょうか。人より優っているからでしょうか。何かアピールポイントを持っているからでしょうか。いいえ、そうではありません。聖書はこう語っています。

I コリント1章

1:27 しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びました。

1:28 有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。

1:29 肉なる者がだれも神の御前で誇ることはないようにするためです。

⇒ 信仰とは素直な心で、神を信頼することです。

- ・「アブラハムの信仰」を思い出してください。 創世記 15 : 6
15:6 アブラムは【主】を信じた。それで、それが彼の義と認められた。
「彼（アブラハム）は信仰によって義とされた」
神が祭司ザカリヤに求められたのは、「その信仰」でした。しかし、ザカリヤの御使いへの応答で分かるように、信仰が働きませんでした。彼は祭司として、当然アブラハム・ストーリーは知っていたでしょう。祭司ザカリヤほどの人物であっても……です。信仰による応答が出来なかったのです。
- ・しかし皆さん。これは私にとっても、励ましでもあります。なぜなら、神はそのようなザカリヤに、大いなる計画を実現されたからです。神はザカリヤを、バプテスマのヨハネの父親となることを、「善し」（よし、goodの意味）とされました。ここに、神の恵み、神の選び、神の祝福がありました。「ザカリヤ讃歌」は、彼が自分の弱さを経験してから生まれた讃美の歌でありました。
- ・愛する皆さん！ 私たちも他の人より優れているから、神に招かれたものではありません。ただ神の恵み、神のあわれみ、神の祝福にすぎません。それは、何と云う感謝なことではありませんか。神は、私たちの迷いも、不信仰も、失敗も知っておられます。しかし、神はその弱い者を生かすことができる方です。神が求めておられるのは、ただ信頼することです。

2. 主の約束の成就（時が満ちた）

1:62 そして、幼子にどういう名をつけるつもりか、身振りで父親に尋ねた。

1:63 すると彼は書き板を持って来させて、「その子の名はヨハネ」と書いた
ので、人々はみな驚いた。

1:64 すると、ただちにザカリヤの口が開かれ、舌が解かれ、ものが言えるようになって神をほめたたえた。

⇒これがザカリヤの讃歌です。そして神を賛美しました。

（ルカ 1 : 67 - 79）

- ・ここで少し整理してみましよう。

1) ザカリヤへの約束

- ・ザカリヤはいったいどのようにして、「主をほめたたえる人」となったのでしょうか？
 - ① まず彼には、御使いをとおして**約束の言葉**が与えられました。
 - ② しかし、彼は御使いの言葉を信じませんでした。それが彼の**応答**でした。
 - ③ しかし**それでも**、神の約束成就の時が来ました。それは神の恵みでした。なぜでしょうか？ ⇒神がアブラハムと結ばれた約束があったからです。**アブラハム契約**です！

- ・愛する皆さん。私たちはここに、重要な原則を発見できます。それは、
 - ①神は約束を守られるお方であることです。ですから、神は信頼に値するお方です。そしてそこに
 - ②「主の備え」がありました。
 つまりザカリヤは、私たちと同じような弱さを持つ人でした。
- ・それでも、「約束の言葉」は成就しました。私たちも、神に招かれた者ではありませんか。そして神との新しい契約に入れられた者ではありませんか。今の時代も、生ける神は「約束の言葉」を私たちに語ってくださるお方です。⇒ 神の「約束の言葉」は必ず成就します。感謝。

2) 主への応答

- ・では、私たちに何が求められるのでしょうか？ ⇒**単純（素直）な信仰**
 - ① 「からし種」のような信仰：**マルコの福音書**
4:31 それはからし種のようなものです。地に蒔かれるときは、地の上のどんな種よりも小さいのですが、
4:32 蒔かれると、生長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張って、その陰に空の鳥が巣を作れるほどになります。」
 - ② 「山を動かす」ような信仰：**マルコの福音書**
11:23 まことに、あなたがたに言います。この山に向かい、『立ち上がって、海に入れ』と言い、心の中で疑わずに、自分の言ったとおりになると信じる者には、そのとおりになります。
- ・この2つの聖句は、先ず不可能なことが「信仰によって」実現可能であることを教えています。ザカリヤの場合も、「然りであり、アーメン！」でした。
- ・まもなく、私たちはクリスマスを迎えます。イエス・キリストの誕生は、

奇跡そのものです。イエスは、乙女マリヤより生まれました。⇒これを「信仰によって」受け入れる人は幸いです。信仰がなければ、受け入れられません。

- ・信仰は、血統や系図によるものではありません。信仰は、知識や立場によるのでもありません。信仰は、自分の努力によるのでもありません。信仰は、人が人を信じさせるものでもありません。信仰は、ただ神の「恵み」です。それは、神がお語りくださったのですから、素直な心で「神の言葉」を受け入れることです。

{例 話} 44年前にいただいた召命の言葉（申命記28章）とその現実；

28:12 【主】はその恵みの倉、天を開き、時にかなって雨をあなたの地に与え、あなたのすべての手のわざを祝福される。それで、あなたは多くの国々に貸すが、借りることはない。

28:13 私が今日あなたに命じる、あなたの神、【主】の命令に聞き従い、守り行うなら、【主】はあなたをかしらとし、尾とはされない。あなたはただ上になり、下になることはない。

28:14 私が今日あなたがたに命じるこのすべてのことばから右や左に外れ、ほかの神々に従い、それに仕えてはならない。

- ・私はこの「みことば」を聞いたとき、主の前に献身の決意をしました。そして、主は私を通してイツのデユッセルドル日本語教会、堺インターナショナル・バイブル・チャーチ、北浜インターナショナル・バイブル・チャーチが誕生しました。それは主が成された「みわざ」です。
⇒ 主をほめたたえます！

- * あなたは、いかがでしょうか？ 信仰で「神のことば」を受け入れているでしょうか？ イエスは、乙女マリヤから誕生されました（クリスマス）。それは普通受け入れがたい出来事です。そうです。キリスト信仰とは、そこから始まるのです。

ま と め

テーマ：「主をほめたたえよ！」

—ザカリヤイ讃歌—

- ・祭司ザカリヤは、御使いの言葉を聴きました。しかし、彼はすぐ神への賛美を捧げたわけではありませんでした。彼には、回り道がありました。しかし回り道は、益と変えられました。結果的には、主を崇め、主を讃美し、「ザカリヤ讃歌」を捧げたのでした。彼の歩んだ道⇒

1. 約束の言葉を受け入れなかった。{彼の応答}
彼には御使いをとおして約束の言葉が与えられました。しかし、信じられませんでした。不信仰です。しかし、それでも
 2. 約束の言葉は成就した（神の恵み）
神の言葉は「然りであり、ア-メン」です。神は約束を守られる方、アブラハム契約の祝福はそこにあります。
- 私たちも、はじめは聖書の言葉を信じられなかったのではありませんか。
しかし、それでも。神の 때가満ちて、神を「ほめたたえる！」者とされたのです。
 - 第一アドベント聖日、私たちはどのような「讃歌」を神に捧げるものでしょうか。私は、「ザカリヤ讃歌」が、「黒田讃歌」になることを願っています。
あなたもザカリヤの名前に自分の氏名を入れてみてください。

* God bless you!